

足立区 緑の実態調査 ＜第6次＞

平成29年度実施

概要版

佐野いこいの森
(平成26年6月撮影)

緑の実態調査とは？

緑の現状を把握するため、おおむね10年ごとに行っており、今回は平成21年に続き6回目の調査となります。

今回の結果を基に、「足立区緑の基本計画」の改定を行います。

■調査内容

- 空中写真を撮影し、その写真を基にしたデータを画像解析し、緑で覆われた面積を判読・抽出

空中写真撮影は平成29年9月18日
よく晴れた日に行いました！

- 上述の抽出面積を区全体や各施設ごとに集計（→1・2ページ）
- 人工衛星のデータから地表面温度分布状況を分析（→3ページ）
- 交差点等の写真から緑視率の測定（→6ページ）

など

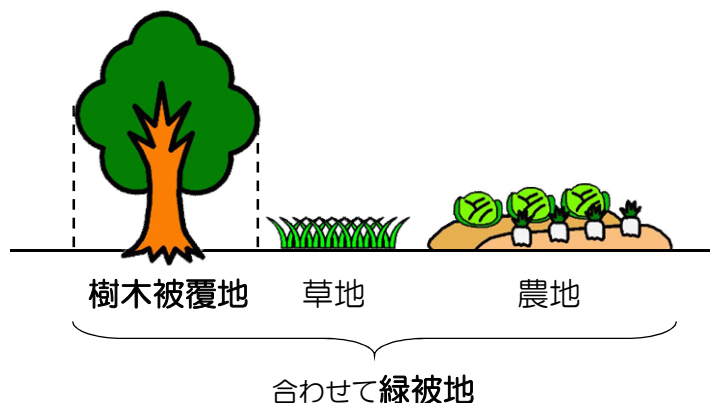
■言葉の説明

じゅもくひふくち

樹木被覆地…樹木で覆われた土地

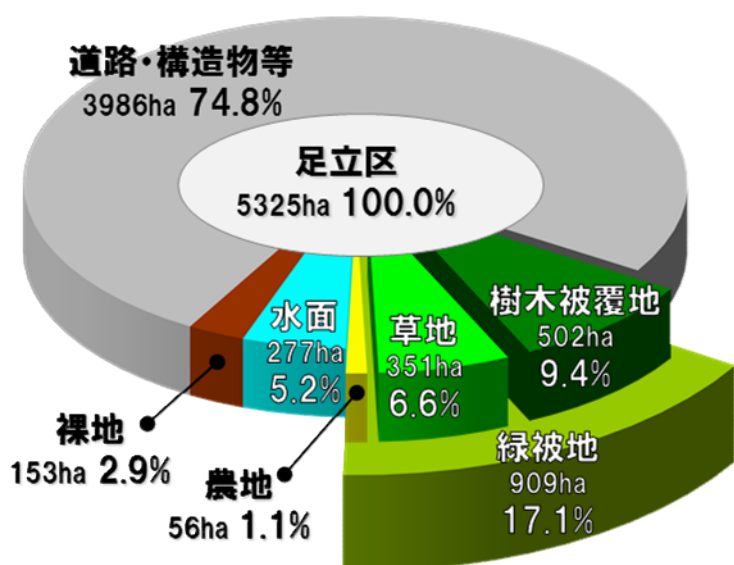
りょくひち

緑被地…樹木で覆われた土地＋草地＋農地



調査結果

- 区全体の樹木被覆地率は前回から1.4ポイント増の9.4%で、現行の「足立区緑の基本計画」の目標値9.4%を達成しました。
- 区全体の緑被率は前回同様17.1%で、現行の「足立区緑の基本計画」の目標値18.1%に1.0ポイント届きませんでした。
- 農地の面積は56.2haで、30年前の四分の一に減少しました。



23区の中で...

樹木被覆地率は19位

緑被率は14位

意外と足立区には緑が少ない... !

樹木被覆地率

8.0%
(H21)



9.4%
(H29)

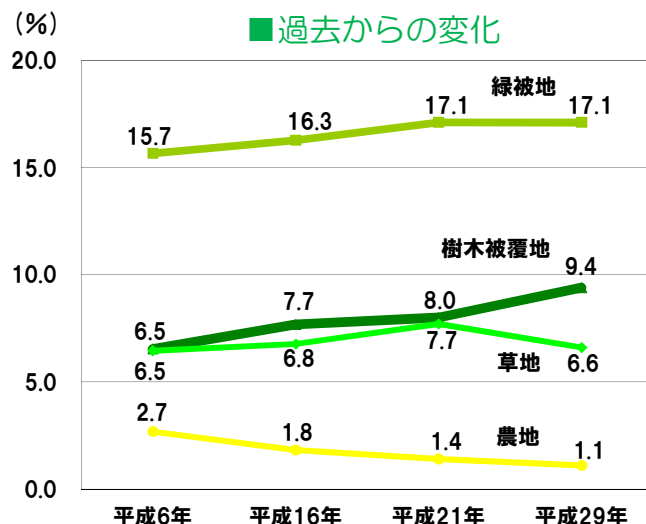
緑被率

17.1%
(H21)



17.1%
(H29)

過去からの変化



公園施設

箇所数

480箇所
(H21)



498箇所
(H29)

面積

305ha
(H21)



326ha
(H29)

区内には、都立公園3箇所、区立公園336箇所、区立緑地（荒川河川敷）6箇所、区立児童遊園153箇所、合計498箇所（326ha）の公園施設があります。8年前と比較すると18箇所、面積で21ha増加しました。樹木被覆地率は、樹木の生長もあり1.8ポイント増加しました。

樹木被覆地率

34.8%
(H21)



36.6%
(H29)

■元洲江公園



公共施設

区役所、住区センター、福祉施設、学校、保育園、警察署など

樹木被覆地率

10.9%
(H21)



11.5%
(H29)

区内475箇所の公共施設の樹木被覆地率は11.5%で、8年前と比較すると0.6ポイント増加しました。

また、そのうち学校施設117箇所の樹木被覆地率は11.6%でした。

公共集合住宅

東京都や足立区、UR都市機構、住宅供給公社が管理・運営している集合住宅

樹木被覆地率

16.7%
(H21)



19.7%
(H29)

区内187箇所の公共集合住宅の樹木被覆地率は19.7%で、8年前と比較すると3.0ポイント増加しました。

区全体の樹木被覆地率（9.4%）を大きく上回り、公園に次ぐ樹木の宝庫となっています。

大規模な開発地

樹木被覆地率 ※東京電機大学の場合

0.0%
(H21)



11.1%
(H29)

開発により、元々草地だったところに樹木が植えられ、樹木被覆地率が大幅に増加しました。

■東京電機大学（3.4ha・千住旭町）の例



屋上緑地

屋上緑地面積

3.3ha
(H21)



8.0ha
(H29)

区内の屋上緑地面積は8.0haで、8年前の3.3haと比較すると、2倍以上増加しました。

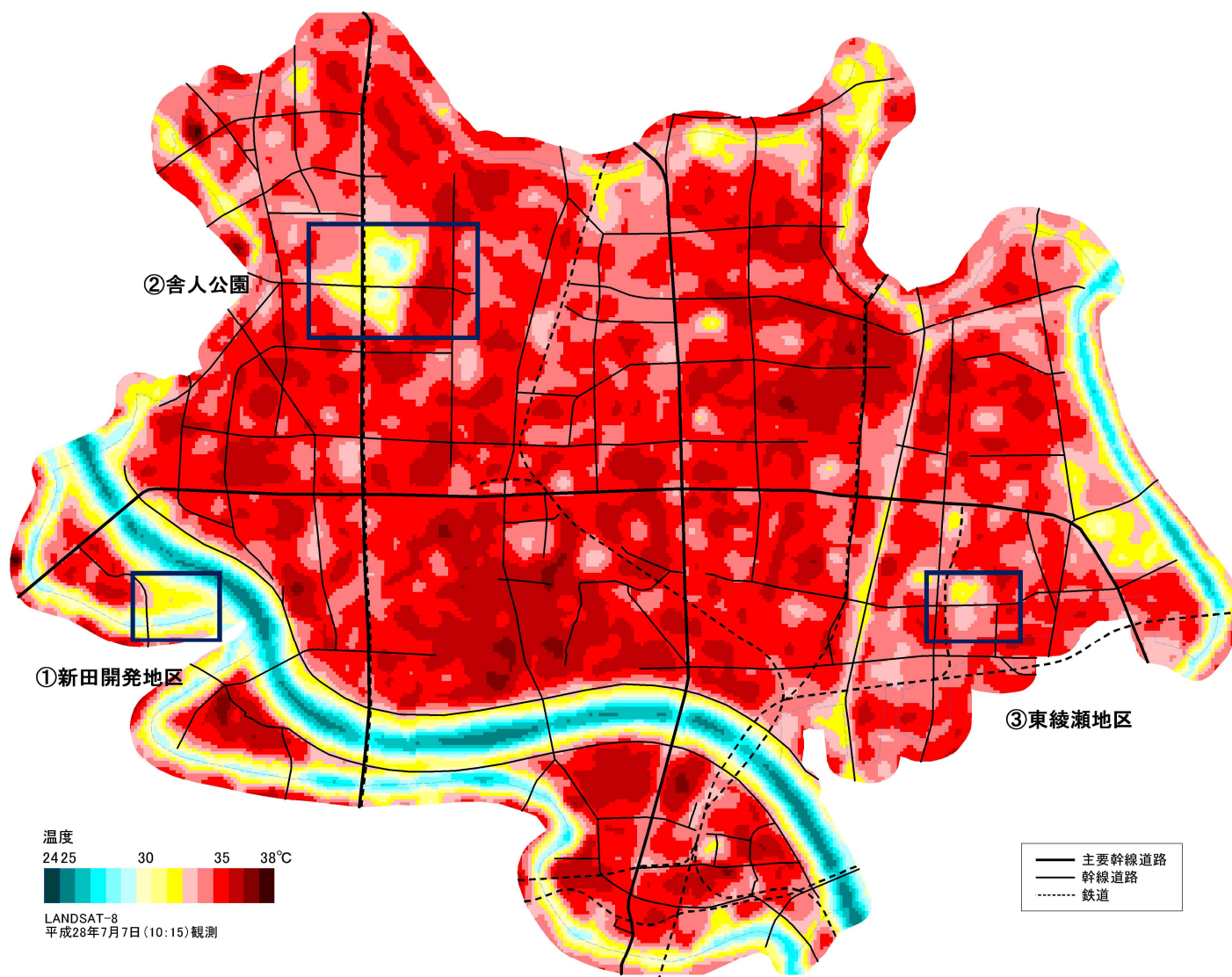
■北千住駅周辺



地表面温度分布図

☆今回初めて実施した調査です

人工衛星データを画像解析して、足立区の地表面温度を示しました。戸建住宅が密集している地域や大きな工場・商業施設がある地域は温度が高く、大きな公園や河川沿い、樹木が多い公共集合住宅がある地域では温度が低くなっています。



この日（平成28年7月7日）の東京の最高気温は36.1℃で猛暑でしたが、舎人公園や河川沿い（荒川、隅田川、中川）では10℃近く低くなっている場所もあります。最高気温より高い場所は、関原・本木地区や六町・南花畑地区など大きな公園が少ない場所でした。



①新田開発地区

新田地区は、荒川と隅田川に挟まれた地区です。

水辺の緑化や街路樹、ビル風などの影響により温度が低くなっています。



②舎人公園

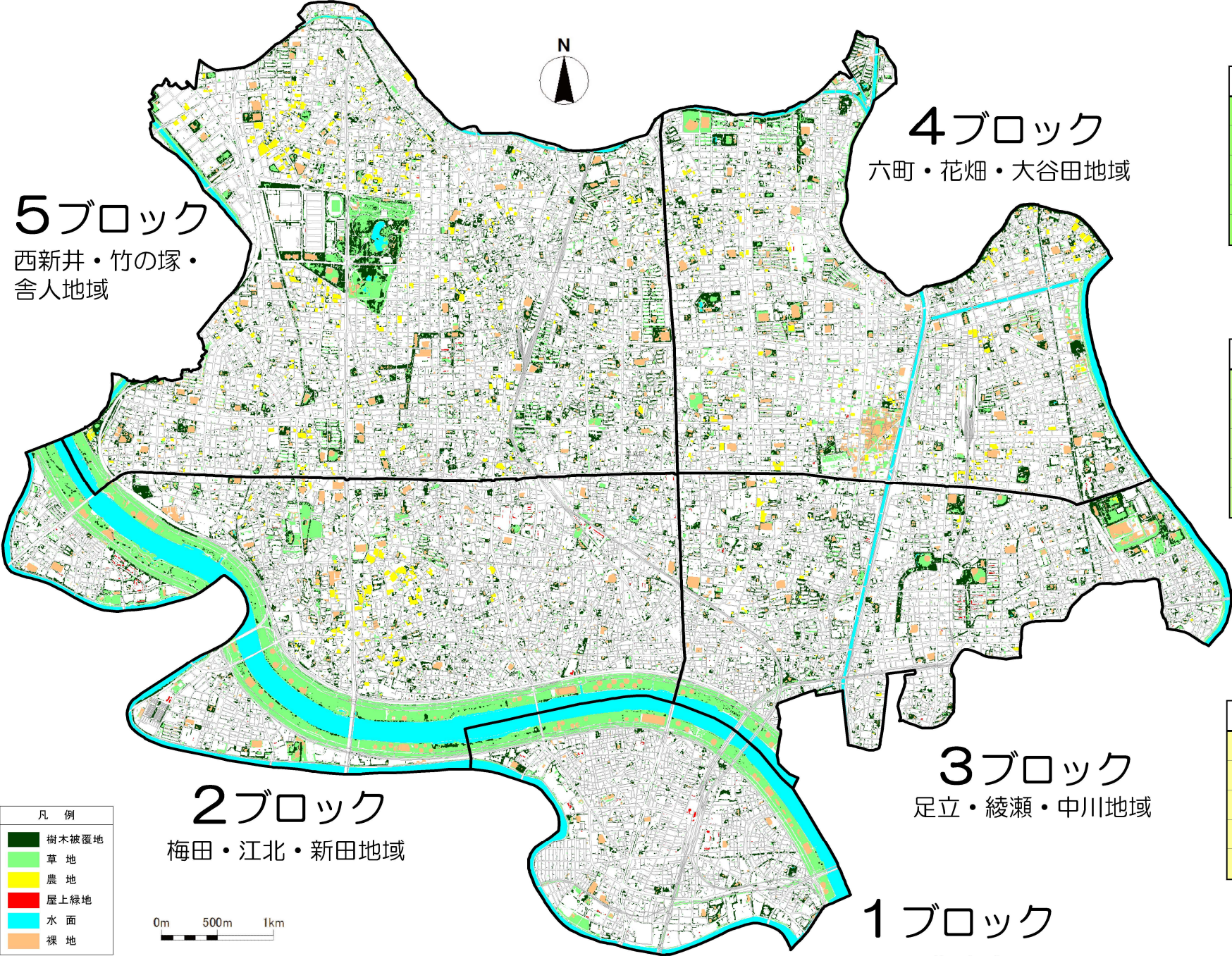
舎人公園は、約63.1haに及ぶ広範囲の公園です。中央に大きな池があり、樹木や草地に覆われ、公園全域および周辺の温度が低くなっています。



③東綾瀬地区

東綾瀬地区は、都立公園とUR住宅が大半を占めている地区です。公園の緑とUR住宅の屋上緑化の相乗効果もあり低い温度になっています。

足立区の緑被等分布図（ブロック別比較）



■ 樹木被覆地率

順位	区全体	9.4%
1	5ブロック	11.4%
2	3ブロック	10.6%
3	4ブロック	9.7%
4	2ブロック	7.5%
5	1ブロック	5.8%

■ 緑被率

順位	区全体	17.1%
1	2ブロック	20.1%
2	5ブロック	17.6%
3	3ブロック	15.7%
4	4ブロック	15.1%
5	1ブロック	14.6%

■ 農地率

順位	区全体	1.1%
1	5ブロック	1.8%
2	4ブロック	1.3%
3	2ブロック	0.9%
4	3ブロック	0.4%
5	1ブロック	0.0%

緑視率

緑視率とは、視界に占める緑（草木）の割合です。駅や主要交差点といった多くの人が利用する場所を調査箇所を設定し、緑視率を算出しました。

14.3% (H21) **UP** **14.6%** (H29)

区内60箇所で調査した結果、緑視率は14.6%と8年前と比較して0.3ポイント増加しました。60箇所を駅前（24箇所）と交差点（36箇所）に分けてそれぞれ8年前と比較すると、駅前は10.7%と1.0ポイント増加。交差点は前回同様17.3%でした。

■緑視率が向上した交差点の例（保木間3丁目）



平成21年(14.5%)



平成29年(49.9%)

左側建物の接道緑化により、緑の景色が視界に広がり、安らぎを与えます。街路樹とともに、接道緑化が緑視率向上に効果を上げていることが分かります。

農地の現状

農地面積 ※1

74.9ha (H21) **DOWN** **56.2ha** (H29)

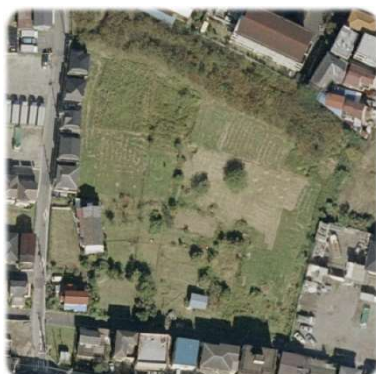
生産緑地面積 ※2

37.4ha (H21) **DOWN** **32.2ha** (H29)

区内の農地面積※1は56.2haと、8年前と比較して18.7ha減少しました。そのうち生産緑地面積※2は32.2haで、8年前から5.2ha減少しました。減少のほとんどが農地転用による宅地造成が原因です。

維持していくことが難しい農地ですが、緑地保全の観点から、少しでも減少を抑え守っていききたいものです。

■農地が宅地造成された例（扇1丁目）

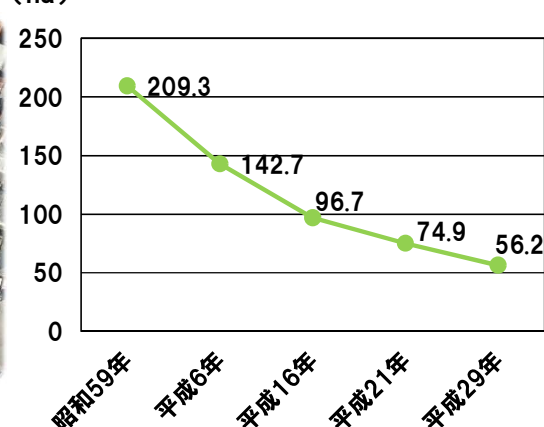


平成21年



平成29年

■過去からの変化（農地面積）



※1 農地面積：空中写真を基に作成したデータから抽出した、農地の面積

※2 生産緑地面積：都市部に残存する農地の計画的な保全を図ることを目的として、一定の要件を満たす農地を都市計画として生産緑地地区に指定した面積

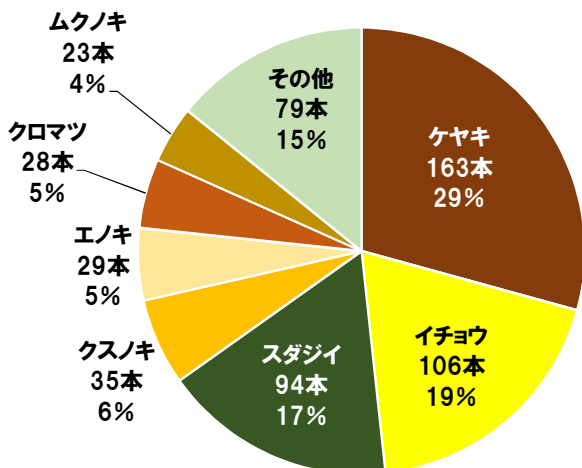
区民の皆様にも調査にご協力いただきました ありがとうございました

保存樹木・樹林

保存樹木の現状把握のため所有者様に樹高や幹周りの計測などをお願いしました。調査していただいた樹木は368本でした。

平成30年1月時点で、足立区が指定している保存樹木は557本、保存樹林は23箇所（4.5ha）です。保存樹木の樹種別では、ケヤキとイチョウで全体の約半数を占めています。

■ 樹種別本数構成比



■ 島根3丁目の保存樹木

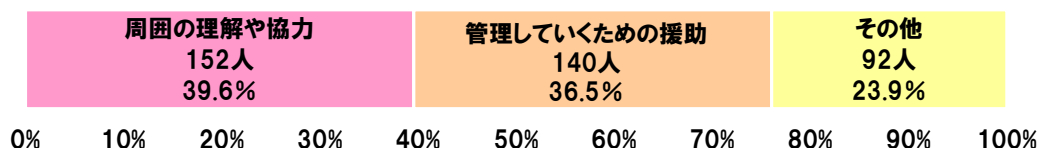
（樹齢約300年のクロマツ）



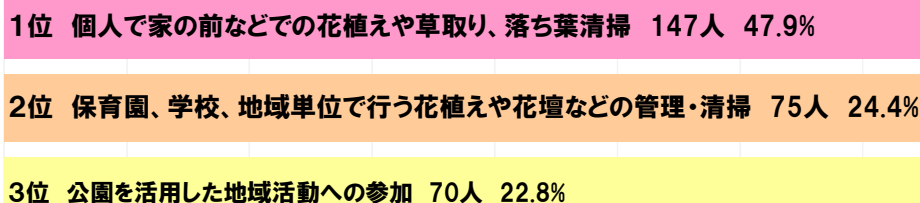
アンケート

区政モニターとイベントで「緑に関するアンケート」を実施し、合わせて384人から回答を得ました。

- 今後、緑を育て守っていくために最も必要だと感じることは何ですか



- 今後、緑に関することで、どのような活動に参加してみたいですか



足立区 緑の実態調査〈第6次〉 平成29年度実施 概要版

発行 足立区
編集 都市建設部 みどりと公園推進室 みどり推進課 計画係
東京都足立区中央本町1-17-1
TEL.03-3880-5111（代表） <http://www.city.adachi.tokyo.jp/>